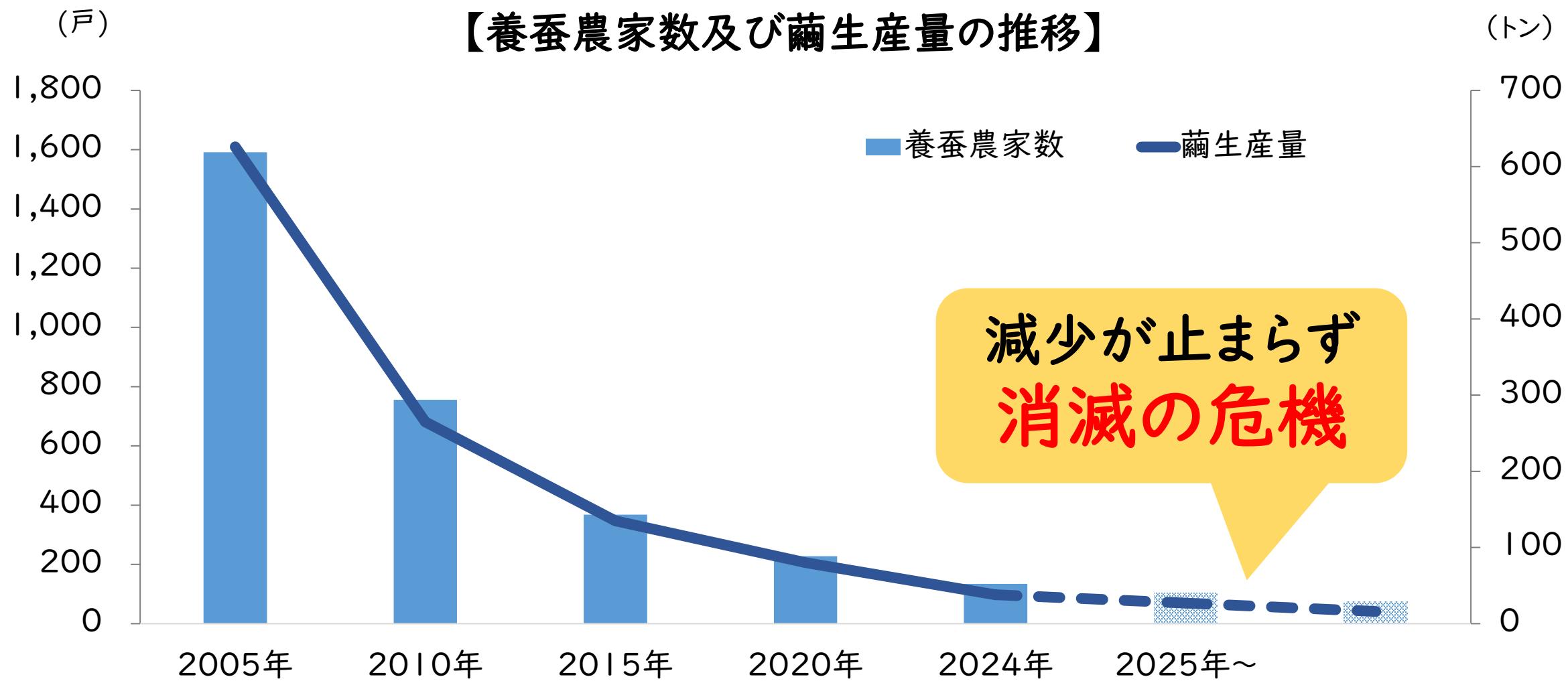


存亡の危機に直面する我が国の蚕糸業

1. 養蚕農家数及び繭生産量

繭生産の戦後のピークは1968年(昭和43年)で12万トンもありましたが、それ以降、養蚕農家数、繭生産量は減少が続いている、直近(2024年)の養蚕農家数は134戸、繭生産量は38トンとなっています。

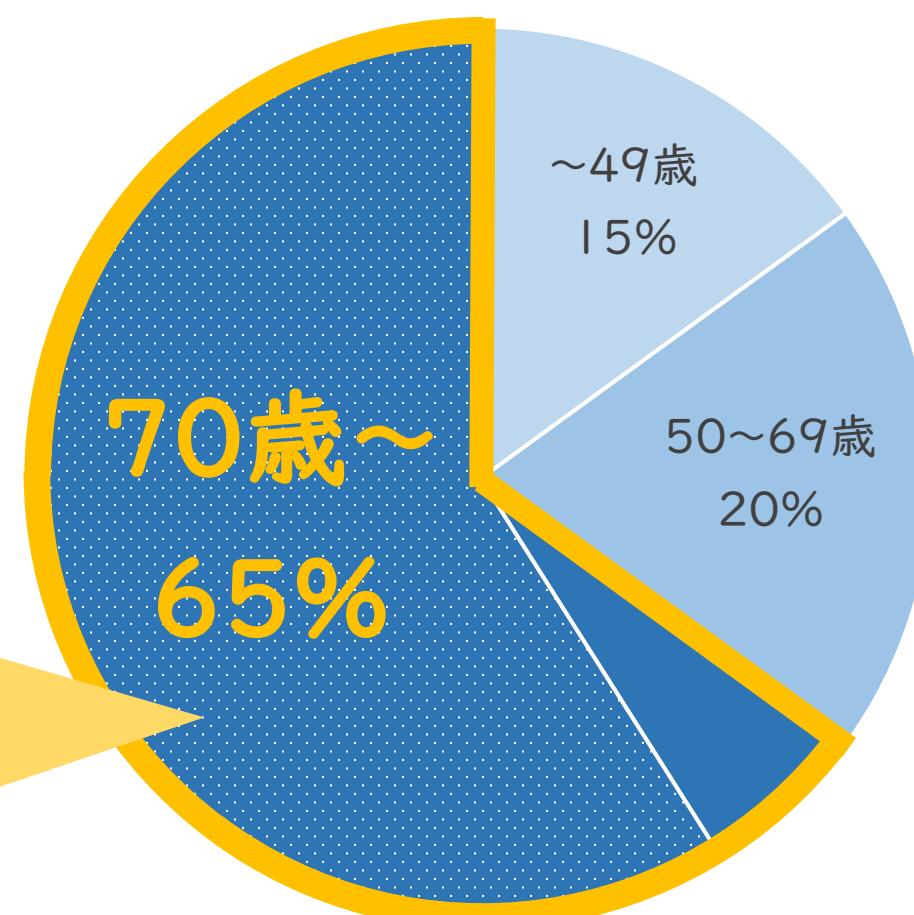


2. 養蚕農家の高齢化と後継者の不在

養蚕農家の経営主は70歳以上が全戸数の約2/3を占めており、それらの農家の9割には後継者がいません。

【農家の経営主の年齢構成】

70歳以上の
養蚕農家の
9割には
後継者がいない



3. 日本の養蚕業が衰退してしまった原因

平均的な繭の販売価格から計算すると、養蚕農家の時給は約550円にすぎません。このため、養蚕農家の後継者が育たず、また、新たに養蚕に取り組もうという農業者の数も極めて少なくなってしまいました。

生産コストを
反映した繭価格
(4,400円/kg)

実際の平均販売
繭価格
(2,700円/kg)

労賃から試算した
養蚕農家の
時給550円

農家の労賃

資材費等

農家の労賃

資材費等

4. 我が国の製糸業の厳しい経営状況

国内製糸を生産している製糸工場は現在わずか5社となっていましたが、製糸部門は全て赤字で、生糸を1kg売る度に平均で約16,000円の赤字となっている状況です。

生産コスト(養蚕、製糸)を
反映した生糸価格
(39,000円/kg)

製糸会社の
赤字額から推計した
平均販売生糸価格
(14,000円/kg)

生糸1kgたり
赤字16,000円

原料繭代(労賃)

原料繭代(資材費等)

製糸工場の経費等

実際の平均販売
繭価格で
試算した生糸価格
(30,000円/kg)

- 国内の蚕糸業が将来も存続していくために

**国産生糸の歴史的・文化的な価値を理解し、
国産生糸を使用した絹製品を
適切な価格で購入することを通じて、
日本の蚕糸業を応援していただくことが必要です。**

3. 日本の養蚕業が衰退してしまった原因

平均的な繭の販売価格から計算すると、養蚕農家の時給は約550円にすぎません。このため、養蚕農家の後継者が育たず、また、新たに養蚕に取り組もうという農業者の数も極めて少なくなってしまいました。

生産コストを
反映した繭価格
(4,400円/kg)



実際の繭の
平均販売価格
(2,700円/kg)

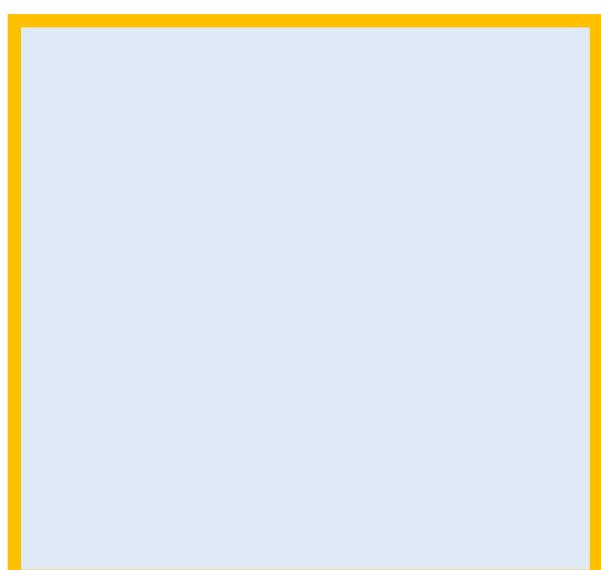


労賃から試算した
養蚕農家の
時給
550円

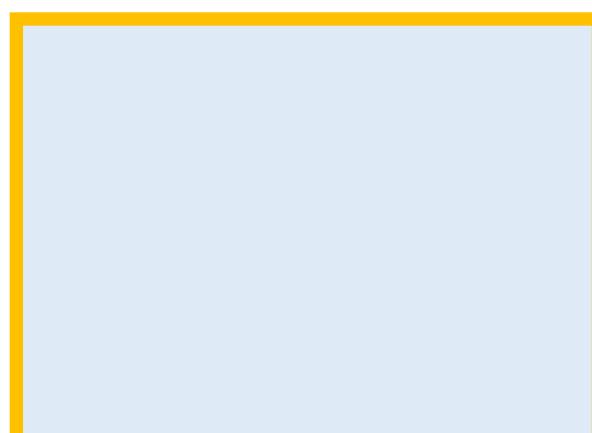
4. 我が国の製糸業の厳しい経営状況

国内製糸を生産している製糸工場は現在わずか5社となっていましたが、製糸部門は全て赤字で、生糸を1kg売る度に平均で約16,000円の赤字となっている状況です。

生産コスト(養蚕、製糸)を
反映した生糸価格
(39,000円/kg)



実際の繭販売価格で
試算した生糸価格
(30,000円/kg)



実際の平均生糸価格
(14,000円/kg)



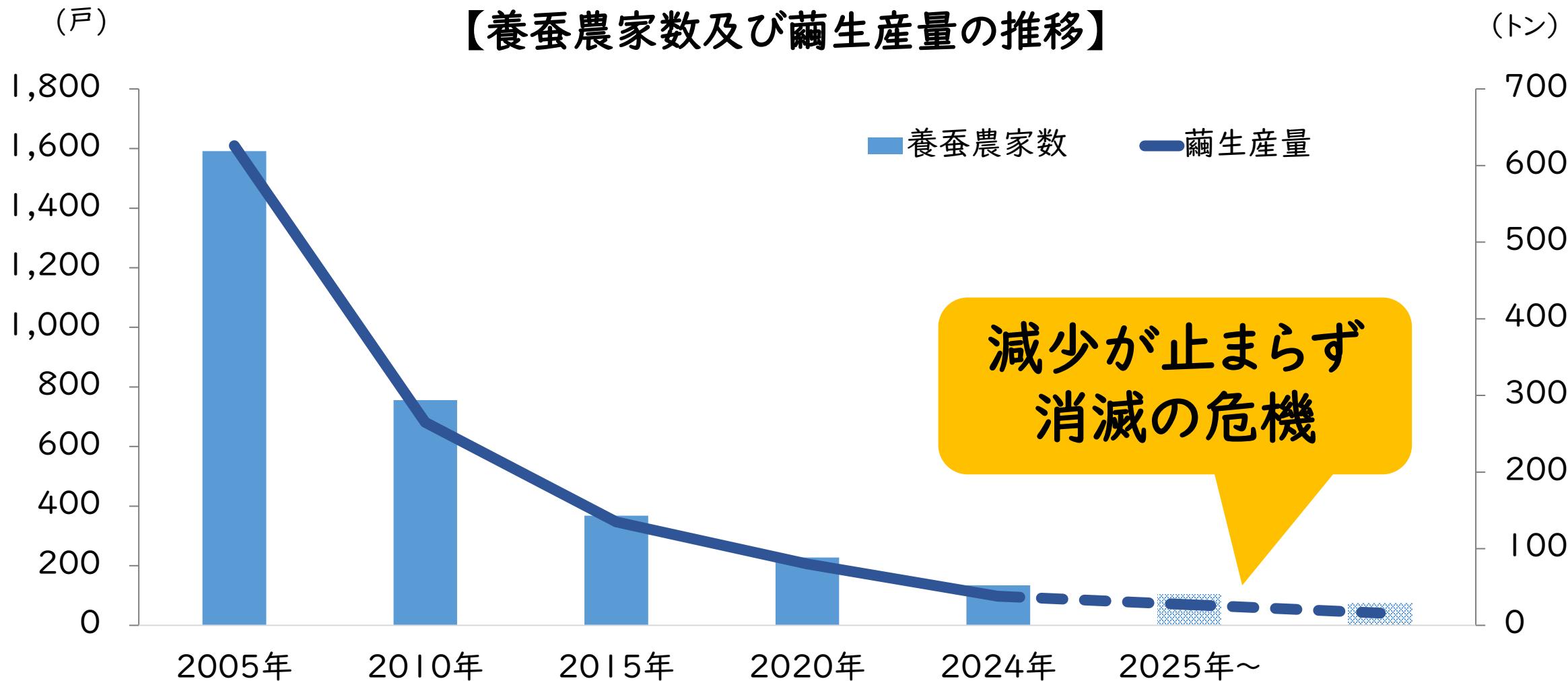
- 国内の蚕糸業が将来も存続していくために

国産生糸の歴史的・文化的な価値を理解し、
国産生糸を使用した絹製品を適切な価格で購入することを
通じて、日本の蚕糸業を応援していただくことが必要です。

存亡の危機に直面する我が国の蚕糸業

I. 養蚕農家数及び繭生産量の減少

繭生産の戦後のピークは1968年（昭和43年）で12万トンもありましたが、それ以降、養蚕農家数、繭生産量は減少が続いており、直近（2024年）の養蚕農家数は134戸、繭生産量は38トンとなっています。

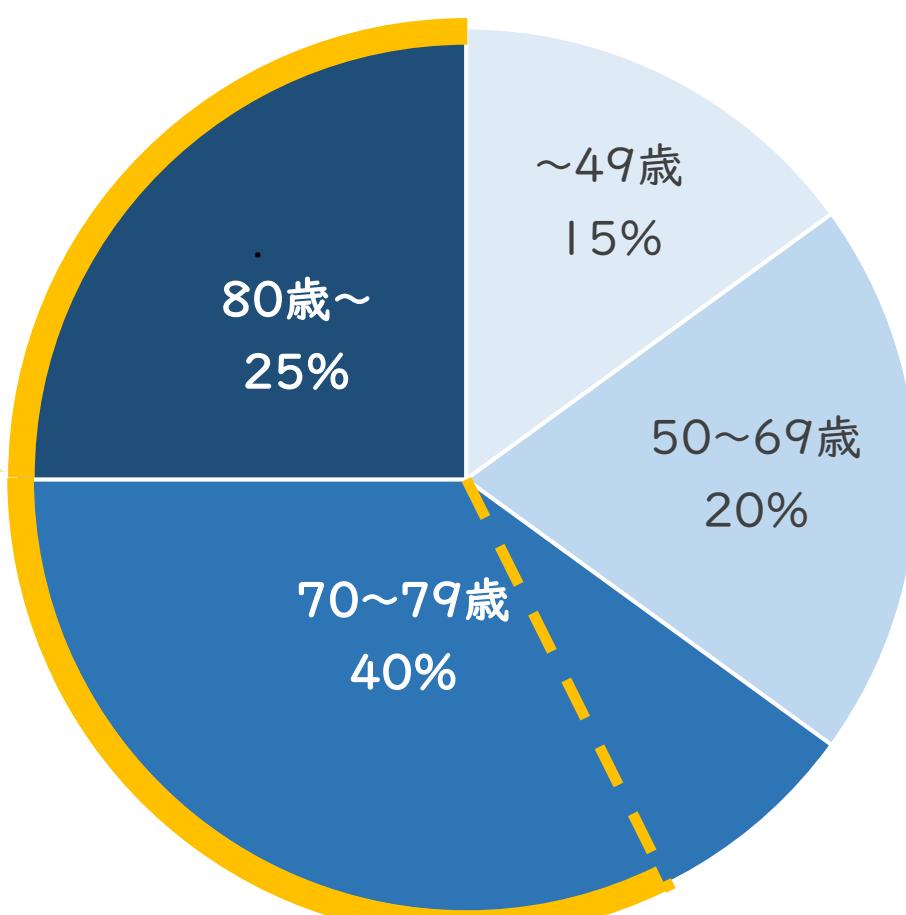


2. 養蚕農家の高齢化と後継者の不在

養蚕農家の経営主は70歳以上が全戸数の約2/3を占めており、それらの農家の9割には後継者がいません。

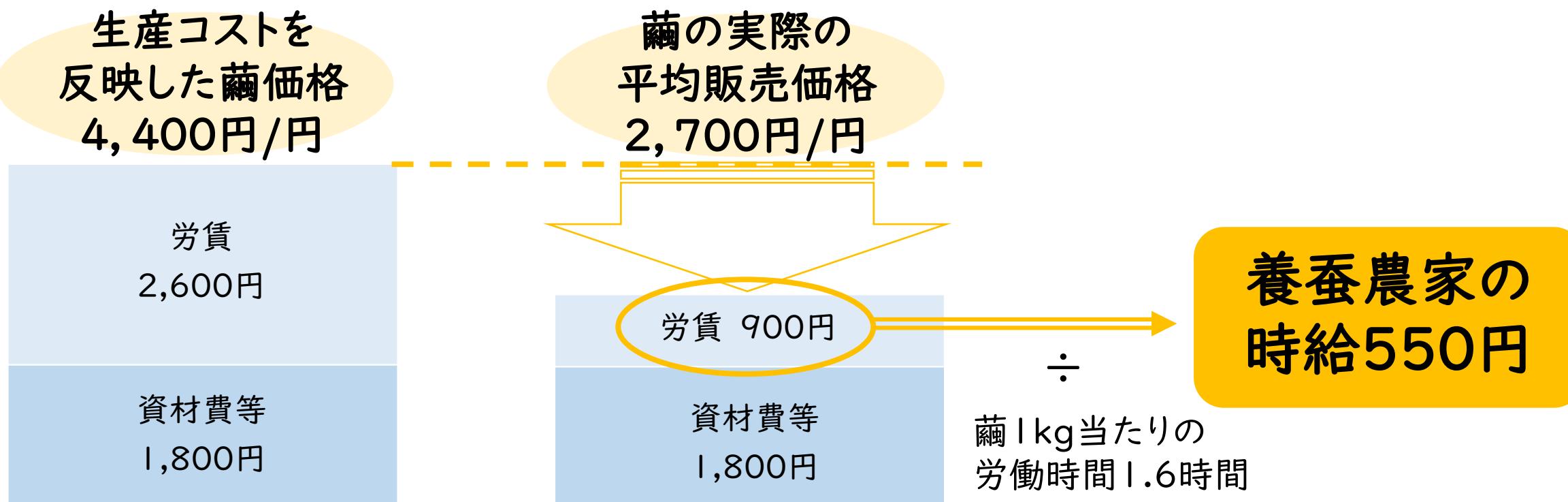
70歳以上の
養蚕農家の
9割には
後継者がいない

【農家の経営主の年齢構成】



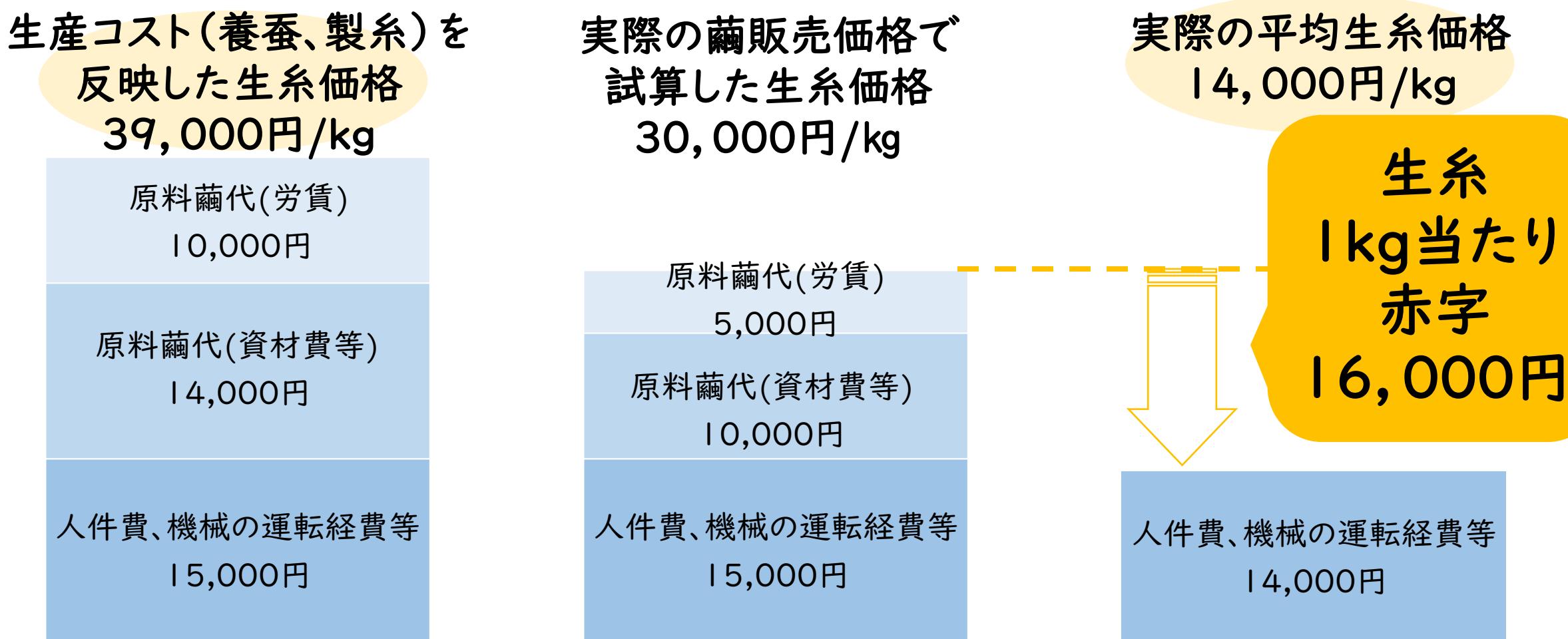
3. 日本の養蚕業が衰退してしまった原因

平均的な繭の販売価格から計算すると、養蚕農家の労賃は約550円にすぎません。このため、養蚕農家の後継者が育たず、また、新たに養蚕に取り組もうという農業者の数も極めて少なくなってしまいました。



4. 我が国の製糸業の厳しい経営状況

国内製糸を生産している製糸工場は現在わずか5社となっていましたが、製糸部門は全て赤字で、生糸を1kg売る度に平均で約16,000円の赤字となっている状況です。



国内の蚕糸業が将来も存続していくためには

消費者の皆さんのが国產生糸の歴史的・文化的な価値を理解し、国產生糸を使用した絹製品を適切な価格で購入することを通じて、日本の蚕糸業を応援していただくことが必要です。